

志小安全・防災だより



H30.8.27 No.19
安全・防災担当：早坂 潤

突然の豪雨による自然災害にも目を向けていきましょう！

8月5日から6日の朝方にかけての雷雨は、今年度始まって以来ではないでしょうか。5日は朝から雨が降りそうな状態ではありましたが、まさかあのような雷雨になるとは思いませんでした。ニュースでも、山形県を中心に非常に強い雨が降り、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に注意を呼び掛けていました。三陸沖の低気圧から前線が東北地方に延びて停滞しているとのことでした。これによって東北地方の大気の状態が非常に不安定になっているとのことでした。学校周辺は、大きな被害は特に感じられませんでした。ポータルセンター前の道路や低地には広範囲で水が溜まっており、中学校から下る坂では、水が勢いよく側溝から噴き出していました。また、八幡川もこれまで見たことがないような水量でした。



八幡川の橋の上で川の様子を見ていたときに、地域の方とお会いしました。その方の話によると、八幡川が大雨で増水すると海から大きな鮎が上がってくるそうです。私は、ここにいる鮎がみな大水で流されてしまうのかと思ったらその逆だそうです。その方は地元の方で、昭和の頃から大雨後の八幡川での鮎取りを楽しんできたそうです。八幡川の水が震災前にあった田を潤してくれていたこと、まちの防火や旭製糸工場などでも使われていたことを聞かせていただきました。

雷雨情報にしっかり耳を傾けなければなりません！

遠くの方で雷の音が聞こえると、「まだ大丈夫」と思ってしまいそうですが、雲が遠くにあっても、雷の音が遠くから聞こえても、突然落ちてきます。2年前に埼玉県で野球の練習試合中に落雷し、高校生が一時心肺停止し、意識不明の状態が続いた後に亡くなってしまった事故がありました。そのメンバーの中に私の甥もいました。たまたま甥は具合を悪くし、ベンチに入っていたそうですが、ものすごい音と同時に全員がうずくまったそうです。その後、みんな立ち上がったとのことですが、ファーストを守っていた生徒だけが、起き上がりず近寄ってみると、帽子と靴に穴が開いていたとのことでした。周りには高い木などがあったそうですが、そこに落ちずに野球をしていた人間に落ちました。このときは斜めから突然雷が襲ってきたそうです。雷に対する危険予知は、侮ってはいけません。